

挨拶

京都大学研究担当理事・副学長 松本 紘

おはようございます。ただいまご紹介いただきました研究担当理事の松本でございます。私も研究所出身ですので、研究に関しまして若干ごあいさつをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

京都大学は研究大学を目指しており、個々の研究者の純粋な精神的自己選択に基づく個人の自由な意思というものを尊重する、自由の学府、あるいは自学自習といった考え方を重んじてまいりました。研究所だけではなくて、大学院、学部はもちろん大学の重要な構成要素であるということは総長ならびに芦立課長からお話でしたが、本日は研究所、研究センターの主催のシンポジウムですので、その特色をご紹介させていただきまして、私のあいさつとさせていただきたいと思っております。

学部や大学院の特色といいますのは、伝統ある学問分野、これはいろいろな分野がございますが、その継承と発展ならびに教育というものが主な使命です。それに対して、研究所・センターと申しますのは、伝統を乗り越えたような新しい研究分野を開拓するという使命がありまして、特定分野を深く掘り下げる、一つの研究を深く追究するという使命もあります。

また、デカルトが言いましたような要素還元論的な一つ一つを丁寧に調べるとのこと以外に、俯瞰的、総括的な視点から自然科学を醸成するというのも一つの使命です。また、先ほど総長からお話ございましたように、京都という風土の中で培われてまいりました長い歴史的な伝統あるいは文化というものを重んじた人文科学の研究を推進することも附置研究所・センターの重要な使命であると考えております。

このように、高度な先端技術を追究する、あるいはじっくり時間をかけて基礎学術を推進するというような、研究を重んじるという京都大学の姿勢がノーベル賞受賞者をはじめとする世界に冠たる研究者を生み出してきた要因ではないかと思っております。そういう観点から申しますと、京都大学の附置研究所・センターといいますのは、それぞれの分野において、ある意味で日本の学術あるいは科学の広告塔であるということをお負ししてやみません。

こう言いますと、大学というのはそもそも教育するところだろうと言われるかたもおられるかもしれませんが、研究は重要です。附置研究所の教員は、学部教育の負担が大学院・学部に比べて少なく、研究に割ける時間が多いわけです。したがって、それなりの立派な研究成果が上げられてきたと考えておりますが、それ以外に特定の分野、特定の研究テーマに対し、人的・物的資源を集中投下できるという特色もあります。

そういう意味で成果が上がってきたのは当然ですが、決してこれは附置研究所・センターが教育を軽んじているということではありません。むしろ、京都大学においては、附置研究所・センターは研究以外に、教育に対しても重要な地位を占めると位置づけられています。京都大学では、学生を自立した研究者と同じように、教員と一緒に研究に従事させることにより、問題を自ら発見する、自ら考える、そして自らそれを解決する方法を模索する手法を学ばせるということを行っています。

ドイツのフンボルトが近代大学の理念というものを幾つか挙げておりますが、その一つに、研究と教授（教育）の一致ということをお標榜しています。これは大学というのは講義を中心とする

いわゆる教室教育だけではなくて、教員それぞれに研究を義務として課す、研究をさせることを通じて、教授陣が研生活を学生と共にすることによって、学生の人格形成を図るという考え方は、高度な研究を目指しております研究大学たらんとする京都大学におきましても、この考え方を採用してきたわけです。

その中で、附置研究所・センターというものは、先端的な研究成果を生み出す研究の場を持っております。その場を高度な先端的教育に提供するという使命も負っているわけです。研究所の教員は、大学院の研究科の協力講座として普通の教育活動も行っていますが、最先端の研究、特定分野の研究、あるいは分野横断的な研究というものに学生を参加させて、一緒に考え、学生の人格形成を図るという義務を負っています。同時に、新分野の研究を開拓するには非常な苦しみや悩みがあるわけで、その悩みを共有させ長い時間をかけて基礎学術をする醍醐味というものを学生に与えるというような形で、学生それぞれの人間形成を促し、人材育成に寄与しているところではあります。

学生だけではなくありません。全国の大学を卒業した若手の研究者を研究所あるいは研究センターという大変恵まれた研究環境に招き入れ、一定期間研究に没頭していただく。没頭することによって得られた成果をばねに、こういった若手の研究者がキャリアパスを駆け上っていくという点におきましても、研究所・センターは人材育成に大きな役割を果たしているわけです。

以上述べましたように、附置研究所・センターは、最先端の研究から基礎学術に至るまで非常に幅広いものを遂行しております。それと同時に、国際的な研究の中核拠点としての役割も果たして我が国全体の基礎学術あるいは基盤形成に大きな貢献をしております。また、ただいま申しましたように、若手の研究者、学生を育てる、大学からいい人材を社会に送り出すという人材育成の役割も果たしているわけです。

最後になりましたが、先ほど総長が申しあげましたように、社会に開かれた大学というのも大変大きな重要なファクターで、今回、附置研究所・センターは我々の培ってきた研究成果の一端を皆様がたに開示して聞いていただくという機会を持ちました。

本日は、研究所センターの中からエース級のスピーカーを用意して、今日の午前、午後に分かれて、皆様がたに研究の一端を聞いていただきまして、それが京都大学からの提言の一つであると考えていただき、本日一日おつきあいいただきますことをお願いして、私のあいさつといたします。どうもありがとうございました。